令和 6年度 園評価書

園番号 55

園名

葵待機児童園

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A:よくできている B:概ねできている、C:あまりできていない、D:できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
こころもからだも元気な子	安心して思いを出しながらあそぶ	愛着関係の中で、温かい応答的な関わりを大切にし、安心して自分の思いや欲求を表現している	一人一人と丁寧に関わり、子どもの気持ちや思いを受け止め、肯定的な言葉で対応するように意識している。また子どもの思いや欲求を大事にしている	A	A	登園時、ニコニコの笑顔で先生方に抱っこされる姿を見て、毎日楽しく過ごしているんだなど実感しています	子どもと保育教諭がわらべうたや手あそび等も通じて愛着関係を築き、子どもの育ちや発達を考慮しながら一人一人の子どもに温かな関わりをしていく
		自分から「やってみよう」「やってみよう」と興味を持ち好きな遊びを楽しんでいる	子ども達の興味関心のある事に目を向け環境を整える事で、子どもが自ら「やってみよう」「やってみよう」と言う気持ちが育っている	A	A		子どもが興味・関心を持てる遊びの環境作りをしていく
		遊びの中で伸び伸びと体を動かし、色々なことに興味を持ち体験する事で遊びを楽しんでいる	色々な経験や体験の積み重ねを大事にしている。広場の遊び方の工夫や可動遊具の設置により、子ども達がのびのびと遊んでいる	A	A		空間の使い方や可動遊具の工夫を考え、遊びの広がりを検討していく

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標					
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	発達や経験の差を考慮し、適切な環境構成や援助を行っている	子どもの発達に合わせて見守る場面、援助する部分を大事にし保育教諭で共通理解をして進めている。乳児園の為、養護面において情緒の安定、安心して過ごせる環境を作っている	A	A		月ごと子どもの入れかわりがある為、職員会議で子どもの情報を共有し、月齢や発達に合った環境作りをしていく
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	園児一人一人の生活リズムや家庭状況に応じて、園生活や遊びの流れを作っている愛情豊かな受容の下で安心感を持って生活できるようにしている	子どもとの愛着関係を大切にし、1日安心して過ごせるよう一人一人の生活リズムを大事にしている	A	A		子どもの情報共有をこまめに行い、気付いた事などを声に出し共有していく
	(3)環境を通して行う教育及び保育	遊びの中で試したり気づいたりする楽しさが感じられるような環境構成がされている	保育教諭が子どもと一緒に遊び楽しむ事で、子どもがその遊びのおもしろさや楽しさに気づけるようにしている。子どもの姿をとらえ、環境設定がマンネリ化しないようにしている	A	B		子どもの遊びの様子を見て、環境の再構成を行っていく
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	事故や災害、不審者対応について安全な対策がとられている	災害時の役割を毎月確認し、担任以外の保育教諭が入ってもわかるようにしている。避難訓練、不審者訓練で出た反省、課題を翌月につなげ保育教諭間で周知している	A	B		ヒヤリハット、避難訓練、不審者訓練で出た反省、課題を検討し保育教諭間で再確認していく
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	温かい触れ合いの中で、心と体の発達を促し、個人差に配慮しながら心地よく過ごせるようにしている	一人一人とじっくり関わる事ができ、家庭的な保育を心がけているので子ども達も安心して過ごせている	A	A		安心して過ごせるよう、家族と同じように子どもとの関わりを大切にしていく
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	個々の発達や特性を理解し、保護者・関係機関と連携を取りながら支援をしている	個々の特性を見ながらその子にあった支援の仕方を考え、保育教諭全員が共通理解して取り組んでいる。関係機関とも連携をとり共有している	A	B		一人一人の子どもの発達や特性を理解をして援助をしたり、面談をして保護者とコミュニケーションをとりながら共有していく
5 組織運営	(1)組織体制の充実	自分の役割に責任を持ち、協力体制のもと保育が進められている	それぞれ自分の役割を理解し、仕事を進められるようにしている。計画性、責任を持って早目の対応ができるようにしている	A	B		クラスだけでなく園全体を把握し、協力体制で保育が円滑に進められるようにする
6 研修	(1)研修体制の充実	園内研修のテーマを共通理解し教材研究をする中で、保育実践が行われている	自分の保育の振り返りや、園全体の課題を見つけ保育実践につなげている。教材研究は、全職員で取り組めるよう時間を作り進められるようにしていった	A	B		職員全員で教材研究をし、学んだ事を保育実践につなげ提供していく
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	こどもが興味・関心を持って遊べる環境構成が行われ、発見を楽しんだり考えたりしようとする	「～したい」と言う子どもの声を見逃さず、遊びが楽しくなるような環境を再構成したりすることで、「次は～したい」という気持ちが出るようになった	A	A		子どもの声、表情、つぶやきを見落とさないようにし、遊びが広がるように保育者が関わったり、環境作りを行っていく
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	こどもの育ちを保護者と共有しながら、ドキュメンテーション・絵本・食育等の情報発信をしている	コドモンの導入により、ドキュメンテーションで子どもの様子を配信し保護者とこどもの育ちを共有している	A	B		園からの発信だけでなく保護者からの情報も共有し、子どもの育ちや成長と一緒に共感していく
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	待機児童園の連携と、連携園の園児(2歳児交流)・職員同士の交流が図られるようにしている	2歳児だけではなく、1歳児も連携園と交流を持つことができた。計画、企画をたて継続できるようにしていく。また待機児童園の連携についても確認できた	A	B		連携園(長沼こども園)、待機児童園の交流の場、計画を立て情報交換していく
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	積極的に地域と関わる機会を持つ事で、地域の園として知ってもらったり、親しまれる園になっている	季節、行事に合わせて積極的に地域と関わる機会を持つ事で、園を知ってもらえる機会が増え定着している	A	B		地域との交流が定着してきているので、少しずつ他の所にも目を向け広げていく